

高野山 結ぶ庵に 袖朽ちて

苔の下にぞ 有明の月

弘法大師作

故 戸田心み子葬儀

寒い冬が終わりを告げ、境内の桜が徐々に蕾を付けはじめ、開花を今か今かと待ちわびております。檀信徒の皆様方におかれましては如何お過ごしでしょうか。



先月二月七日十七時二十四分、平福寺住職御内室であります戸田心み子が永眠いたしました。行年六十三歳でありました。檀信徒

の皆様には、生前大変お世話になりました。母・心み子に代わりまして、御礼申し上げます。

三日の朝、意識不明で倒れている所を発見し、すぐに救急車で病院に運ばれました。お医者様には懸命に治療していただきましたが、その後、母・心み子は一度も目を覚ますこと無く、静かに息を引き取りました。

通夜は十二日十七時より平福寺傳燈館にて、御導師様に塩尻郷福寺の名譽住職、白馬義文権大僧正をお招きし、近親者十八名にて執り行われました。葬儀は翌日十三日十三時半より、同じく導師白馬義文権大僧正のもと、職衆に組寺の諸寺院住職をお招きし、平福寺遍照殿にて執り行われました。

(下記写真)

隣組の皆様はじめ、総代役員の皆様、檀信徒の皆様、その他関係各所の皆様、多くの方に参列、弔問に足を運んでいただき、嬉しい限りです。

今後は住職と姉弟四人で戸田家と平福寺を支えていかなければなりません。大きな存在が欠けてしまい、当然のことながら不安もありますが、皆様方のご協力を仰ぎつつ、当山を守っていきける様に精進していきたいと存じます。この度は誠に有難うございました。



皆様へお願い

母・ふみ子逝去に伴い、皆様へお願いがございます。今までは住職が法務等で寺を空ける際、大概は母・ふみ子が留守番をしておりますため、いつ来寺されても対応することが可能でしたが、今後は寺を不在にすることが多々あるかと存じます。お手数ではありますが、当山に来寺される際には、あらかじめ連絡していただけると、留守を防ぐことが出来ます。

また、平福寺の会計など、母・ふみ子が担当していたため、引き継ぎが全く出来ておらず、現在は過去の資料を遡りながら手探りで業務を行っております。今後しばらくは到らぬ事が出てくることと予想され、総代の役員様をはじめ、檀信徒の皆様にご迷惑をお掛けするかもしれないと存じます。今後とも当山平福寺を宜しくお願いいたします。

高野山東京別院



↑ 高野山東京別院本堂

私事ではありますが、昨年八月より、高野山東京別院にて、高野山真言宗の本山職員として勤めさせていただくこととなりました。数年は東京を中心に法務に当たることになるかと思えます。もちろん、当山の行事等では今まで通り、携わらせていただきます。

東京別院では、日々本山特有の様々な行事を行っており、学び得るものが多々あります。本山職員として学び培ったものを、皆様にお返しできる日が来るように、精進していきたいと存じます。

今回のお言葉

今月号のお言葉は、先月号に引き続き『高祖弘法大師第二番』の御詠歌になつてお歌です。

お大師様が御入定されてから八十六年目、時の天皇である醍醐天皇の夢枕に一人の修行僧が現れ、この歌を詠まれました。意識すると、

「お大師様は現在も高野山の御廟にて、衣の袖が朽ち果てるまで衆生を苦しみから救おうとしており、その姿はまるで世間の闇を照らす有明の月ようだ。」

となります。夢から覚めた醍醐天皇は、父であり仁和寺を開かれた寛平法王と、香川県出身の高僧観賢僧正より嘆願されていた『弘法』の大師号とともに、椴皮色の袈裟衣をお大師様へ下賜されました。このことがきっかけとなり、毎年お大師様が御入定された三月二十一日に、御衣替の儀式が現在も勤修されております。

年間行事

- 一月 厄除け祈願大祭
- 三月 春季彼岸会・涅槃会
- 四月 研修旅行
- (阿字の子会主催)
- 五月 春季例祭・大般若会
- 七月 高野山参拝旅行
- 八月 夏季例祭・大施餓鬼会
- 九月 秋季彼岸会
- 十二月 二年参り

お知らせ

- ・墓地分譲中
- ・傳燈館予約受付中
- ※ホームページまたはお電話にて申し込みいただけます。
- ☎：〇二六三三七七二四二五

ホームページ

下のQRコードよりサイトに移動できます。※周りに方に広めて頂けたら幸いです。

